

## 女声合唱団クール・ミルフィーユ

指揮:中館 伸一

1996年創団。「細く長く」を合い言葉に、月2回の日曜日の午前中に楽しく練習をしています。童謡、唱歌、邦人曲、外国曲など幅広いジャンルのアカペラ曲を持ち歌としています。秋～冬に高齢者施設で訪問演奏することを目標として、春～夏に新曲に取り組み、また今までで歌った曲を再度練習して演奏に磨きをかけています。今までにコンクール、合唱祭、ジョイントコンサートなどにも不定期で出演しています。

## Tokio Cantus Societas

指揮:片野 秀俊

2012年4月創立。指揮者 片野秀俊を音楽監督として、広く西洋から日本、中世から現代の混声合唱レパートリーを紹介していくことを目指す少人数によるアンサンブルグループです。団名は、ラテン語で「東京の歌の集まり」です。同年10月に東京文化会館で行われた「詩と音楽の会」新作発表演奏会に出演してデビューしました。同演奏会のライブ録音は、NHK FMでラジオ放送されるとともに、「詩と音楽の会」制作によりCD販売されています。

## アルジェンティーナ&マザーグース(女声合唱2団体合同)

指揮:岸 信介 ピアノ:由良 郁子

35年前誕生したヴォーチェアルジェンティーナの14名は、歌うこと大好き。創団35年の今年はこのコンサートで歌わせていただける幸せな記念の年となりました。11月17日第8回演奏会を開催いたします

私たちマザーグース合唱団は、世田谷で創団し、61年を迎えます。岸信介先生のご指導のもと、新しい曲に取り組むときの期待と緊張、歌うにつれて見えてくる楽曲の全体像にわくわくしながら12月9日の第14回演奏会に向け練習をしています。

## 女声合唱団「松」

指揮:松村 努 ピアノ:織田 祥代

女声合唱団「松」は1994年3月の創団です。前年、鎌倉芸術館開館記念事業の一つとして、市民合唱「第九・日本語で歌う歓喜の集い」が開催され、その時合唱指揮者であった松村先生の熱意と指導力に感銘を受けたメンバーが発起人となり松村先生に新しい女声合唱団の指揮をお願いしました。「松」という名前は、松村先生のお名前の一文字を使わせていただいたことと、松竹梅の松を目指したいとの思いで命名しました。2年に一度の定期コンサートを開催。2004・2008・2012・2017おほかあさんコーラス全国大会出場、2013～2017年コンクール連続銀賞受賞。年齢を重ねても意識を高め、「松」らしい響きを求めていきたいと思えます。

## 女声合唱団しらべ

指揮:岸 信介 ピアノ:五十嵐 稔

私達「しらべ」は2004年に大学の同窓生で結成しました。先輩である合唱指揮者の岸信介氏、ピアニストの五十嵐稔氏を迎え、月2回のペースで合唱を楽しんでいます。昨年10月に第5回演奏会を開催いたしました。本日は詩編23をシューベルト及び松下耕作曲で演奏いたします。それぞれの美しい旋律をお楽しみいただけたら幸いに存じます。

## Ensemble Evergreen

指揮:仁階堂 孝

1998年結成。ルネサンス・バロック期からロマン派・近現代のヨーロッパ合唱作品をはじめ、邦人作曲家への委嘱曲、中南米の合唱曲、日本・沖縄の民謡など、アカペラ作品を中心に様々なジャンルの楽曲に取り組んでいる。2003年にエストニアで行われた国際合唱祭では室内合唱部門第1位を獲得。また、グアテマラ、台湾、沖縄、長崎へ演奏旅行を行うなど、様々な演奏機会に積極的にチャレンジしている。

## 安積フィメールコール東京

指揮:菅野 正美 ピアノ:庄司 紀子

福島県立安積黎明高校(旧・安積女子高校)卒業生で構成する女声合唱団。恩師である故・渡部康夫氏のもと郡山市で1987年に結成。同年渡欧(ウィーン青少年音楽祭)にて大賞受賞。1989年渡豪演奏旅行。1999年、音楽之友社により湯浅譲二作曲「ふるさと詠唱」をレコーディング(安積女子高校委嘱作品)。2002年に東京支部結成。2010年より恩師・菅野正美氏を指揮者に迎え、東日本大震災後は特に「ふるさと福島のために」独自の活動を続ける。

## [招待演奏] 埼玉県立浦和第一女子高等学校音楽部

指揮:小松 直詩

昭和21年創部以来、71年の伝統と多くの実績を持つ合唱団。毎日新聞社主催の全日本学生音楽コンクール合唱部門(昭和21年～昭和50年)30回中26回全国大会に出場、うち4回1位受賞。また、朝日新聞社主催の全日本合唱コンクールに、昭和26年から現在まで通算39回の全国大会出場を果たす(関東支部高等学校部門では最多)。近年では平成27・28年度に金賞受賞など。OGは約1200名。音源では平成22年、3枚組のCD「浦和一女音楽部全国大会名演集1984～2009」およびさだまさし女声コーラスアルバム「花咲きぬ」がリリースされている。

## 岸 信介(企画・構成)

国立音楽大学声楽科卒業。指揮法を山田一雄、和声・合唱法を増田順平の各氏に学ぶ。1970～76年日本合唱協会コンサートマスターを務める。1981年のスイス国際合唱フェスティバル、ウィーン・ペーター教会、メルク修道院等の海外での演奏にも高い評価を得る。指導している合唱団の集まりである「舳の会」を主宰し、数々の新曲を委嘱初演している。NHK合唱コンクール等の審査員、各地の合唱祭の講師、講習会の講師等、多方面にわたり活躍している。また男声カルテット「クール・エスプリ」を結成、絶妙なハーモニーで各地で活躍している。全日本合唱連盟理事長、東京都合唱連盟顧問、日本合唱指揮者協会会員、日嗅文化協会会員、かながわ合唱指揮者クラブ会員。NS-4クワトロメンバー。

## [特別出演] 佐々木 典子(ソプラノ)

武蔵野音楽大学卒業後、ザルツブルクのモーツァルテウム芸術大学オペラ科を首席で修了。その後、ウィーン国立歌劇場オペラ研修所を経て、同歌劇場専属歌手として本契約する。ウィーン国立歌劇場日本公演、夏期並びに復活祭のザルツブルク音楽祭のオペラ公演に出演。ウィーンを始めヨーロッパ各地の劇場で数多く出演。帰国後は、二期会、数々の団体で、「魔笛」パミーナ、「コジ・ファン・トゥッテ」フィオリディリージ、「真夏の夜の夢」ヘレナ、「こうもり」ロザリンデ、「フィガロの結婚」伯爵夫人、「ニュルンベルクのマイスタージンガー」エファ、「タンホイザー」エリザベートなど、主役には不可欠な存在としてその地位を確立。また特にR.シュトラウスの作品は、重要な位置をしめ、「ばらの騎士」元帥夫人、「ダナエの夢」ダナエ、「ダフネ」ダフネ、「ナクソスのアリアドネ」プリマドンナ、アリアドネ、「カプリッチョ」伯爵令嬢、など多数出演し、卓越した音楽性と表現力は、世界的巨匠をはじめとする共演者からも常に尊敬と信頼の対象とされている。NHKニューイヤーコンサート、NHKクラシック倶楽部等に出演。CD:オールR.シュトラウスのプログラム「四つの最後の歌」。熊本市女性賞。第2回ホテルオークラ音楽賞受賞。東燃ゼネラル音楽賞洋楽部門本賞受賞。東京藝術大学音楽学部教授。東京二期会会員。



[交通案内] ●四ツ谷駅(JR線・丸の内線・南北線) 麹町口ほか 徒歩6分  
●麹町駅2番出口(有楽町線) 徒歩8分  
●赤坂見附駅D出口(銀座線・丸の内線) 徒歩8分  
●永田町駅7番出口(半蔵門線・有楽町線) 徒歩8分